

## 積極的なCSR活動で社会課題の解決を

### はじめに

数年前から企業の社会的価値が論じられ、持続可能性(サステナビリティ)という観点からすべての社会的責任を企業は果たすべきであるといった考えが提示されるようになってきました。その背景には、経済的発展に伴いさまざまな資源の限界や気候変動の問題など、人類が共通の認識を持って取り組まなければならないことが意識されてきたためといえます。

日本における医薬品業界を取り巻く環境を見ても、医療費増加の問題や公的な福祉のあり方など解決すべき課題が山積みしています。さらに、世界的な経済不況といった状況に加え、東日本大震災からの復興もまだ入り口に立ったといった現状です。

このような状況を踏まえつつ、久光製薬は「世界の人々のQOL(クオリティ・オブ・ライフ:生活の質)向上を目指す」ことを経営理念として事業に取り組んできました。この普遍的な価値観を持続可能なものに高め、より積極的なCSR活動を進展させることで、すべてのステークホルダーが抱える共通の課題解決に対して応えていくことができると考えています。

### イノベーションの鍵は現場に

久光製薬が培ってきた「貼る治療文化」は、治療法としては古くから知られたものですが、薬剤のデリバリーシステムとしてのTDDS(経皮薬物

送達システム)は、今後も多くの可能性を秘めた技術であると考えています。その可能性を最大限に活かしていくことが、久光製薬のイノベーションの根幹です。既存の医薬品に対してお客さまの生活シーンに密着した課題を探し出し、常に改善を続ける一方で、TDDSの利点を活かし新規の製剤を開発し、より多くの皆さまのQOLの向上を図ることの両面を推進することが重要です。このようなさまざまな改善のための鍵は、全て皆さまが生活を営んでいる現場にあり、日々患者さまと向き合う医療現場にあります。まさに「イノベーションの鍵は現場にあり」と言えます。

このような観点から、つくば研究所内に新規基盤技術研究室を立ち上げました。現場のニーズをいち早く取り込んで、業界の枠を超えた技術を交えながら患者さまのQOLに対応するための体制を整えたことで、より一層のスピード感を持って展開を図っていきます。

また、TDDS製剤(経皮吸収型製剤)は遠隔地まで品質を損なわず運びやすい形態であり、日本など成熟国における過疎地や、新興国・途上国における物流インフラに課題がある地域においても、TDDSの可能性は少なくないと考えています。

TDDS、TDDS製剤：関連記事 P20

### グループ企業で取り組むCSR

CSR活動をステークホルダーが求めるものへ

と進展させるためには、マネジメント体制の充実も必要です。その端緒として、2012年度には自社課題をより明確に社内共有できるよう、CSR推進委員会が中心となり、自社事業の可能性と社会課題の状況を精査し、重要課題の抽出を試みました。

個別課題の洗い出しはもとより、企業グループとしてのマネジメントに関する課題や、バリューチェーンを含めた今後の取り組みの方向性を委員会で共有し、中期計画を構築するための基盤とすることができました。

これらの議論を通じて、法規制遵守レベルでの取り組みから、より広い視野を持ったCSR活動への転換という共有認識を持ち、ステークホルダーの皆さまと共に、より充実したCSR活動に取り組んでいきたいと考えています。

### 環境課題への取り組み

東日本大震災以降の日本におけるエネルギー課題は言うに及ばず、環境課題は、もはや一企業が省エネルギーに取り組むといったレベルではなくなっています。

気候変動課題は、昨今世界中で異常気象の発生要因としても認識され、日常的な取り組みの積み重ねが非常に重要になっています。さまざまな事象が災害につながっているという想像力を持って、対策に取り組むことが重要なのではないのでしょうか。

また、廃棄物処理による埋立地問題や環境汚



染など、私たち企業がその起因となっている問題も少なくありません。これら事業活動に密着した課題にも真摯に取り組む必要があります。

久光製薬では、環境課題への取り組みを広くステークホルダーの皆さまと共有し、今後も適切な対応を図っていききたいと考えています。事業の発展と環境負荷の低減を相反するものとは考えず、その両方の実現を目指していきます。

久光製薬のCSR活動は、皆さま方の真摯なご意見を必要としています。本報告書に対するご意見などいただけますよう、よろしくお願いいたします。

代表取締役社長 **中富 博隆**